

原発回帰に強い危機感

6月8日、大阪市西区うつぼ公園において、「もうやめよう あぶない原発！大集会inおおさか」がおこなわれました。近畿各府県や福井県などから1200名の参加がありました。



はじめに、福井の中嶋哲演氏が主催者あいさつし、関西電力と国による原発延命の画策を批判、大惨事が引き起こされてからでは遅い。関西圏に大きく声を広げ、まずは参院選でも与野党逆転を

実現しようと呼びかけました。続いて各政党、市民団体、労働組合からのアピールがありました。最後には、集会宣言が採択され、先月5月17日に、台湾の全ての原発稼働が停止し、原発ゼロが達成されたことが報告されました。そうした中で、日本政府が「GX脱炭素電源法」を成立させ「原発の最大限活用」方針を打ち出したことは、世界中での原発回帰の背中を押しかねないと、強く危機感が表明されました。集会後は、「老朽原発ただちに廃炉！」「自然エネルギーに転換を」などと訴えながら、難波まで御堂筋をデモ行進しました。支部からは、7分会、執行部含め12名が参加しました。
(書記長 吉馴 真一)

第56期中央労働講座

6月12日～14日の3日間、シーパレスリゾートにて全港湾第56期中央労働講座が開催されました。全国各地から書記長クラス28名が集まり、講師・中央本部6名、総勢34名の参加でした。

今期の労働講座は、書記長は扇で言えば要の部分であり重要であり強化したい。また、書記長同士の横のつながりが必要なので交流を深めて欲しいと趣旨説明がありました。

「全港湾の歴史」(講師：鈴木誠一中央執行委員長)では、全港湾の結成から港湾労働法の制定闘争、全国港湾を結成して産別交渉確立した歴史を学びました。また、現在の日本は特定利用空港・港湾の制定など軍事化が進められていますが、資源がなく食料自給率が低い日本は戦争をしてはいけない

と再認識しました。「産別協定と事前協議制度」(講師：玉田雅也全国港湾書記長)では、港湾産別協定は先輩たちが築いた財産であり、産別協定と事前協議制度は未来へ向けて重要であるとわかりました。また、日港協による産別制度賃金の団交拒否には徹底してたたかわなければなりません。



「組織強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」(講師：鈴木龍一中央副執行委員長)では、

組織率の低下は組織の弱体化をさせ、そうすると企業は牙をむいてくるでしょう。そうさせないためにも5つの組織力を強化し、労働運動はもちろんですが、反戦平和・護憲・反原発・選挙など組織外の運動にも参加していかなければと思います。特に選挙運動の重要性と今夏の参議院選挙の森屋隆議員への応援要請がありました。

レクリエーションはオンブローゲームという班対抗の数字当てゲームでした。優勝した班には賞品があるということで頑張りました。賞品は、優勝した班の班長が今期の級長に任命されるといったもので、結果、私が第56期級長を任されました。

交流のほうも地域や職種は様々ですが、同じ役職が多いということもあり深まったと思います。今回学習したことを継承して、伝えていけるようにしたいと思います。
(書記次長 関谷 和人)

だんけつ



発行 大阪市港区築港1-12-27 全日本港湾労働組合関西地方大阪支部 発行責任者 陣内恒治

沖縄平和行進に参加して

私は今回、沖縄平和行進に参加する機会を得ました。これまで戦争の悲惨さや平和の尊さについて学ぶことはありましたが、実際に沖縄の地を歩きながら平和への思いを深めるという体験は、これまでにないほど心に強く残るものでした。

行進の途中、私たちは沖縄戦で多くの命が失われた場所や、今も米軍基地が存在する地域を訪れました。その一つひとつの場所には、過去に起きた出来事と今なお続く問題が重くのしかかっていた。地元の方々のお話を聞きながら歩く中で、「戦争は過去の出来事ではなく、今も続く影響を持っている」ということを強く実感しました。その中でも特に印象的だったのは、ある年配の女性のお話です。幼い頃に沖縄戦を体験し、家族や友人を失い、それでも「戦争を憎むのではなく、二度と繰り返さないように語り続けることが大切」と静かに語る姿に、胸を打たれました。その言葉から、悲しみの中でも希望を持ち、平和を築こうとする強さを感じました。また、全国から集まった参加者と共に歩く中で、平和を願う気持ちは世代や地域を超えてつながっているのだと感じました。共に汗を流しながら「平和を守ろう」という思いを共有することで、目に見えない強い絆が生まれたように思います。

今回の沖縄平和行進を通して私は「平和とは、ただ戦争がない状

態ではない」ということに気づかされました。過去を忘れず、今ある平和を守り、未来に引き継いでいくことだと。そのためには、まず自分自身が正しく知り、考え、行動することが大切なのだ学びました。今後もこの経験を胸に、日々の生活の中でも平和について考え、身近な人と語り合っていきたいと思います。そしていつか、自分の言葉で次の世代にこの思いを伝えられるようになりたいです。

青年部副部長 平澤 悠磨



この時期になると、分会の先輩から「良い経験になるから、一度は参加した方が良い」と聞いていました。分会でも事前学習会を開いてくれましたが、あまり物事に関心を持ってない自分でも、本当に感じるものがあるのだろうかと思ったり不安もありました。1日目は、全国結団式から始まり、三単産結団式がありました。2日目からいよいよ平和行進が

始まり、普天間基地コースを歩きました。冒頭「今年沖縄地方は梅雨入りしないのでは」というほど珍しく強い日差しの中での行進になるので、熱中症に気を付けてほしいとありました。いざ行進をすると仲間のシュプレヒコールで気合いが入り、行進団の中でずっと大きな声を出してシュプレヒコールを叫んでいました。声をずっと出して引っ張っている人の姿を見て、自分も引っ張る側になろうと思いました。予想以上の暑さと日差しで、長い道のりを歩く事がどれだけ過酷かが身に染みてわかりました。足を引きずりながらも歩いている人もいたり、年配の人が歩いている姿を見ると、頑張ろうという気持ちになれたり、地元の方から手を振って頂いたり、幼稚園からは子供たちの声援ですごく感動して本当に平和行進に参加して良かったなと思いました。

沖縄タイムスの記事によれば、沖縄平和行進には2200人が参加したそうです。全国から多くの団体が結集し、皆が同じ目的を持って行進している姿を見て「これが団結か!」と実感しました。実際に参加しないと分からない、言葉では表現し難い事だと思いました。行進が終わり沖縄地本で青年交流会が開かれ、真剣に話す人、笑いをとる人、場の空気を盛り上げる人、色々な人と交流を持って楽しく過ごせました。3日目は、旧海軍豪からひめゆ

り資料館、平和祈念公園と行きま
した。戦争は二度と繰り返しては
いけないと思いました。

4日目は、2014年から辺野古
新基地建設の反対運動をされてい
る仲宗根氏に現地を案内して頂き
ました。このような活動をされて
いる方は、やはり「言葉に重みが
あり芯がしっかりしている」と、
自分にはそう感じました。ゲート
前に座り込んで工事車両を止めよ
うとする約80名の人々を見て
「同じ日本なのに沖縄では大きな
問題がある」と色々考えさせられ

複雑な気持ちになりました。数の
力の凄さを知った反面、なぜもっ
と人が集まらないのかと疑問を抱
きました。自分や家族、身近な人
の問題なら動こうとする人は多い
はず、しかし、沖縄の人口146
万人に比べると余りにも少なく、
沖縄には関心がある人が少ないの
かと感じました。

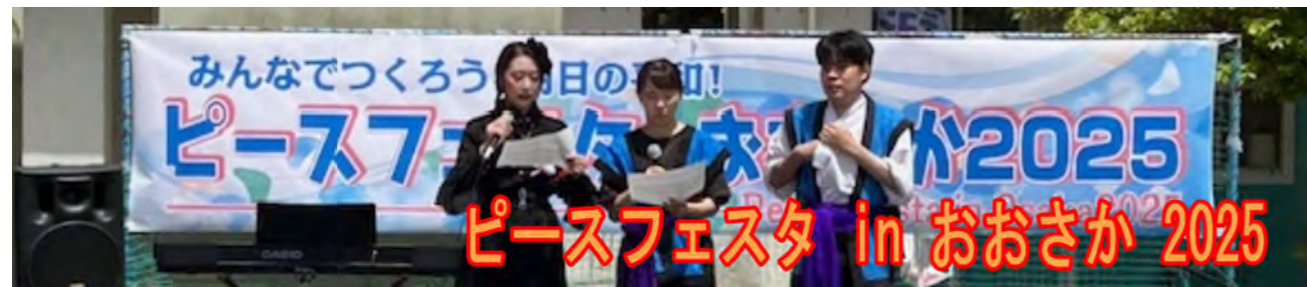
仲宗根氏からは「現状では基地
建設を止める事は難しく、遅らせ
る事しかできない」と言っていま
した。難しい話ですが、他者の問
題を自分の問題として捉える人が

増えれば、少しは平和になるのか
と思いました。

最後になりますが、沖縄につい
てもっと知ろうと思えた4日間
になりました。三単産、沖縄地本
の方々、仲宗根さんありがとうございます。

平和行進に参加して平和に対す
る思いや、反戦に対する思いが今
まで以上に強くなりました。これ
からもこの様な活動をしていきま
すので団結して頑張っていしまし
ょう。

青年部事務局次長 津村 拓哉



5月11日(日)、いくのパー
クにて「ピースフェスタinおお
さか2025」が開催されました。7
組によるライブステージや20も
の模擬店の出店・出展により、ま
た天候にも恵まれ多くの人でにぎ
わいました。

ピースフェスタは、今年で3回
目の開催でしたが、まだまだ周知
が足りず、何かと思う方も多いこ
とでしょう。

私たち全港湾は、日頃から労働
運動のみならず平和運動にも力を
注いでいます。特に平和運動のひ
とつに集会参加・デモ行進を想像
されるでしょう。もちろん大切な
取り組みで、現場の声を聴いて大
きな教養となります。そういった
取り組みから少し趣向を凝らし、
「誰でも参加しやすく楽しめるイ
ベントを」と企画されたのがピー
スフェスタです。

現在世界では、戦争や紛争が絶
えず、多くの人々の命が失われてい

ます。日本国内でも中国による台
湾有事と決めつけ、国民に「不安」
と「防衛の必要性」を煽っている
かとも思えます。特にここ10年、
急速に軍事化が進んでおり、沖縄
を中心とした南西諸島、辺野古新
基地建設をはじめとする琉球弧の
島々の軍事要塞化が進められてい
ます。



また、私たちにも大きな影響を
もたらせかねない、各地の空港や
港湾を「特定利用空港・港湾」に
指定し、軍事訓練等で使用できる
よう整備・拡充する動きを見せて
います。そのような戦争できる国
づくりへと邁進する日本政府に反
対の声を上げて訴えていかなくて

はなりません。

近年、日本各地で地震や豪雨に
よって被災が相次ぎ、多くの人命
が失われています。自然災害は防
ぐことはできませんが、原発事故
は東日本大震災の教訓から防ぐこ
とはできるはずで。二度とあの
ような惨劇を繰り返さないため
にも「NO!」を突きつけなければ
なりません。

世界中で平和に対する多くの問
題が山積しており、そのほとんど
が差別から始まっています。全て
の差別は戦争への道です。いかな
る戦争行為や差別に反対し、この
ピースフェスタが世界平和の一端
を担えるように継続していくこと
が重要です。もっと多方面に発信
し、もっと大きな取り組みにして
いかなくてはなりません。次回は
組合員の皆さんも家族や友人を誘
い合わせの上、来場して楽しんで
頂ければと思います。

(副執行委員長 横山 貴安基)

港湾部会学習会

5月30日に畠山昌悦関西地本
執行委員長を講師としてお招きし、
大阪支部港湾部会学習会を開催し
ました。学習会には大阪支部港湾
部会、執行部あわせて30名の参
加者が集まりました。

学習会では、畠山委員長が自ら
作成された資料をもとに、三・三
答申を参考資料として、全港湾発
祥の歴史から港湾労働法制定への
動き、そして当時の秘話など歴史
を深く知ると共に、わたしたちが
当たり前のように享受している労
働環境や福利厚生への成り立ち、そ
して今後の課題に至るまで学習す

ることができました。
畠山委員長には、このような学
習会ができたことにお礼を申し上
げると共に、時間の短さで資料の
要点だけを講義して頂く形になっ
てしまったことがとても心残りとな
りました。今回、1つの学習が
終わったのではなく、1つの学習
が始まったと感じました。今後も
畠山委員長をお招きし、頂いた資
料を深掘りしていけるような学習
会を開催して、もっと多くの組合
員が参加してもらえたらと考えて
います。

(港湾部会事務局長 佐久原智彦)



参加者間で活発な意見交換が行わ
れました。

2日目は、午前9時からの交渉
に向けて衆議院議員第2会館へ移
動し、国土交通省および厚生労働
省との交渉を実施しました。事前
に提出していた要請書に対する文
書回答をもとに、質疑応答が行わ
れました。3時間を超える意見交
換の中では、全国各支部から集ま
った仲間たちの現場に根ざした率直
な意見が交わされ、今後の課題に
向けた議論が活発に行われました。

大阪支部からは、陣内副委員長
より、標準的運賃の実効性やトラッ
ク物流Gメンの現状と課題につい
て発言がありました。また、南野
執行委員からは、現場の声として
「運賃が上がっても労働者に還元
されていないのではないか」との
指摘や、「65歳定年延長」およ
び「再雇用者における同一労働同
一賃金の実現」に関する質問が出
され、関係省庁との間で踏み込ん
だ協議が行われました。



中央海コン・トラック・バス合同対策会議

2025年6月3日から4日にか
けて、東京都大田区の日港福会館
会議室にて、全港湾中央本部によ
る第2回海コン・トラック・バス
合同対策会議が開催されました。

本会議には、中央本部・畠山副
委員長をはじめ、全国から28名
が参加し大阪支部からも代表2名
が出席しました。

初日は、鈴木誠一中央執行委員
長より、第15回「国際海上コン
テナの陸上輸送に係る安全対策会

議」等の報告が行われた後、各地
方の活動報告と、翌4日に予定さ
れている要請行動について議論が
交わされました。

また、交運労協事務局長・慶島
譲治氏を迎え、「2024年問題の
課題と対策について」の学習会が
開催され、労働現場で直面してい
る課題とその対応策について理解
を深めました。続いて、畠山副委
員長よりトラック業界を取り巻く
現状についての情勢報告が行われ、



制度や法改正が目まぐるしく進
む中で、現場の課題を的確に伝え、
制度・政策要求を強めていくこと
が重要です。今回の会議で得られ
た学びと議論を今後の活動へしっ
かりと活かしていきたいと考えて
います。

(車両部会長 南野 一樹)